

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 110 〔琴瑟調和〕 きんしつ ちょうわ 〔琴瑟相和〕 きんしつ そうわ

< 意味 > 夫婦の仲がむつまじいことのとえ。また、兄弟や友人などの仲がよいたとえとして用いられることもある。琴と瑟の音が程よく整っている意から。

< 出典 > 「詩経」<小雅、常棣じょうてい>

「・・・

妻子好合 如鼓琴瑟

妻子さいしよ好がく合つし

琴瑟きんしつを鼓ひくが如ごとし

兄弟既けいてい翁 和樂且す湛つど

兄弟 既すに翁つどい

和樂わらく且かつ湛たのしまん

・・・」

通 釈：『妻と子の睦まじきこと、琴と瑟を奏でるがごとし。同族はここに集い、睦みかつ楽しめ。』

語 釈：「瑟」は大型の琴。「調和」は音が程よくつりあっていること。

一 言：新元号シリーズ その3

このシリーズ2までは「令」のつく四字熟語を取り上げましたが、今回は「和」です。新聞の情報ですが、これまで19回元号に使われてきたとあります。やわらぐ、おだやかなど漢字の意味を考えれば当然でしょう。

なお、出典には調和も相和も文言に見られませんが、「詩経」が出典とされています。

参照文献：明治書院「新釈漢文大系」詩経・中 岩波書店「四字熟語辞典」